

# 選挙結果から、平和を考える ～参議院選挙に向かって～

講師：山口 二郎さん

法政大学教授 専門は現代政治、行政学 「市民連合」呼びかけ人



山口 二郎さん

## 開催概要

日時：2022年1月14日(金)

14:00～16:00

場所：オンライン開催

参加人数：28人

担当：平和委員会

総選挙以後の政治課題として、総選挙で問われるべきだったこととして、コロナ対策の敗戦がある。対策は主観的で机上の空論であった。間違いを軌道修正しない。責任を取ろうとしない無責任の体系がある。野党は、人命軽視の政治姿勢、医療政策の誤り、コロナ禍があぶりだした社会、経済システムの矛盾、例えば支援策が個人に届かないことや非正規労働者を救えない国であることなどを論じるべきであった。メディアは反野党バイアスがあり、国民には自分は助かるだろうという正常バイアスが働いている。

選挙の総合評価として、野党共闘は意味あるものであったが、勝利には程遠く支持率の低いままでは、政権交代に近づくことはできない。野党共闘を振り返ると、野党共闘の信頼性の問題、政権合意をめぐる表現の分かりにくさ、具体的なイメージが伝わらなかったこと、二極的構図を作りきれなかったこと、連合との確執、政策をめぐる混乱、消費税引き下げに人々は無反応であったことなどの問題があった。

今夏の参議院選をどう戦うかについて、1人区の野党候補者一本化は継続すべき、候補者選考の段階から市民参加し、候補者の討論会、予備選挙などの工夫が必要である。野党協力の再構築では、参院のテーマは、政権選択ではなく政府与党に対するチェックと牽制とし、共闘自体を目的としない。勝つ可能性ある1人区は必ず一本化する。国民民主党を野党側に引き戻す。立憲民主党課題としては自民党に出来ない政策テーマ、男女平等、エネルギー転換と新産業の創出、個人をベースにした社会保障を掲げ、党内のエネルギーを結集する。岸田政権の展開と憲法問題について、岸田氏は党内ではリベラルで憲法改正には慎重な宏池会に属するので、池田勇人の再現になるか、自民党の右傾化に流されるかの2つのシナリオがある。しかし、すでに、敵基地攻撃能力論の危険性、防衛費倍増による改憲によらない憲法崩壊が起きている。